

トイレのオールジェンダー利用に関する意識調査2022 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2022 Study of Attitudes Regarding Restrooms for All-Gender Use”

トイレのオールジェンダー利用に関する研究会(編)

（国立大学法人 金沢大学・コマニー 株式会社・株式会社 LIXIL）

Research Group on Restrooms for All-Gender Use (Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

2026年3月



はじめに

「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」の前身である「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」は、2017年7月に発足しました。その5年後の2022年に公共施設も対象に加えた調査を実施するにあたり、研究会名称を「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」に改め、活動を継続してまいりました。

2022年調査の結果を取りまとめる本報告書の編集中であった2024年11月7日、座長の岩本先生がご逝去されました。ジェンダー学・社会学・統計学の観点から本研究に多大なご助言を賜っていた先生を失い、その後の取りまとめにおいては、先生の知見を踏まえつつ、残されたメンバーで慎重に検討を重ねました。

作業着手から3年以上を要しましたが、本報告書を完成し公開できる運びとなりました。

ここに、2017年の研究会発足当時に金沢大学の研究代表者であった岩本先生が、研究会の活動趣旨として寄せられたメッセージを掲載します。

本メッセージは、先生のご生前の問題意識と本研究会の出発点を示す記録として、研究会の責任において掲載するものです。

初心に帰るとともに、先生のごこれまでのご貢献に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

この研究会発足のきっかけは、今年、コマニーから石川県の性的マイノリティの団体を通じて私にアドバイスを求められたことでした。これまでもLIXILと特定非営利活動法人虹色ダイバーシティが昨年4月に発表した「性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査結果」にて、性自認によっては職場でのトイレ利用が困難なことが判明しています。

今回この問題を深掘りし、両社とともに、本研究会をスタートすることになりました。さまざまな職場での状況や取組みを踏まえ、トイレ空間と利用者の両面から、どのようなジェンダーの人にも安心して快適なトイレが社会に広まることを目指して活動します。

本報告書から引用される際のお願い

本報告書から引用される際には、必ず下記の表記をお願いします。

和文： トイレのオールジェンダー利用に関する研究会2022（金沢大学、コマニー、LIXIL）

英文： Research Group on Restrooms for All-Gender Use 2022 (Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

※金沢大学、コマニー、LIXILの3者は対等な立場であり順番に優劣はありません。
一部を省略することを禁じます。

CONTENTS

1. 「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について	 4
2. 調査実施概要	 6
3. 調査結果報告	 17
3-1. トランスジェンダーの割合	 17
3-2. 就労状況・プライベート状況	 21
3-3. トイレの利用状況（オフィス・公共施設）	 32
3-4. カミングアウト状況と利用しているトイレ	 38
3-5. トイレ利用のストレス・不満点、小便器間の仕切り（オフィス・公共施設）	 43
3-6. 「多機能トイレ」に関する意識・利用状況（オフィス・公共施設）	 57
3-7. 「男女共用個室トイレ」の利用に関する意識（オフィス・公共施設）	 75
3-8. 「男女共用個室トイレ」の設備・機能（オフィス・公共施設）	 90
3-9. 「男女共用個室トイレ」のレイアウト（オフィス・公共施設）	
①「男女共用個室トイレ」を含むレイアウト：5パターン比較	 97
②「男女共用個室トイレ」の並列レイアウト：3パターン比較	 115
3-10. トイレのサイン：男女別トイレ・男女共用トイレ（オフィス・公共施設）	 122
3-11. トランスジェンダーに対するシスジェンダーの意識（オフィス・公共施設）	 129
3-12. ダイバーシティに対する企業の取り組みへの意識	 148
4. 補足資料（用語解説、参考文献等）	 151

1. 「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について

トイレのオールジェンダー利用に関する研究会について

国立大学法人 金沢大学、コマニー株式会社、株式会社LIXILの3者による、産学共同研究会です

研究会からのメッセージ

トイレ利用は、人間の尊厳にも関わる人権のひとつでもあります。本研究は、研究会メンバー3者の知見を掛け合わせることで、「オールジェンダーに対してあるべきトイレ」を追求し、すべての人のトイレ利用に関する人権が尊重される社会環境実現の一助となることを目指しています。

利用者一人ひとりの性自認やプライバシーが尊重され、尊厳が保障されること、そして、利用者の意思に沿う選択肢があること、それらを利用しやすい環境を整えることが重要です。また、オフィスのように特定の人が利用する場合は、利用者に寄り添った個別対応も求められます。

そうした社会環境の実現には、設備などのハードを整備することはもちろん、啓発や教育により偏見をなくし、すべての人が正しい知識とダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DE&I：多様性と公正性、包摂性）の視点を持つことも大切です。

ひとりでも多くの人が、トイレで悩むことがなくなるように願っています。

発足

2017年8月、オフィスに焦点を当てた「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」を発足。

2022年5月、オフィスに加えて公共施設のトイレも調査するため、研究会名称を「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」に改め再発足。

主な活動

- 2017年の調査報告書を2019年5月に公開
- オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究成果の一部を書籍に寄稿
『SDGsとトイレ（進化するトイレシリーズ）』（日本トイレ協会編、柏書房、2022年8月発行）、第3章-4「性的マイノリティとトイレ」
- 2022年の調査結果の一部を、速報として2023年6月8日にプレスリリース
- 各種学会、セミナーなどにて調査結果を報告